

題 水産職新規採用者の就業談 有馬史織

大学院を修了し、4月から相模湾試験場に就職しました。

働き始めてから2か月、午前中はほぼ毎日ほうじょうに乗船し、様々な調査に参加しております。

私はすぐに酔ってしまうので、乗船する日はまだまだ酔い止めの薬が手放せないのですが、毎日様々な調査を経験してきました。

例えば、アジの釣獲調査や藻場調査、ブイメンテナンスやROVの操縦などです。



ROV（水中カメラの操縦状況）



アジ釣獲状況

今まで携わった調査のうち、個人的に一番興味深い調査は藻場調査です。

この調査では、神奈川県の水産資源を代表するアワビなどの資源管理を目的としており、アワビが生息する藻場の磯焼け状況などを調べています。最終的にこの調査は、漁業者の方々へ調査結果を説明し、今後の対策などを提案するというような仕事につながっていきます。

調査には、ダイビングをして記録をとる潜水調査と、小型船の船上から小型ビデオカメラを吊り下げて撮影をする調査の2種類があります。

前者では、潜水することでアワビの生息場所や藻場の状況などがより詳しく観察できます。私は、この調査で学生時代に培ったダイビングスキルが漁業者の方々に役立つ仕事に生かせるということに喜びを感じています。今後はさらに観察眼を養い、藻場の現状をきちんと漁業者の方々に伝えられるようになりたいと思っています。

後者では、潜水をしなくても簡単に短時間で広範囲の藻場の現状を記録できます。現在は調査方法を模索中ですので、試験場の方々と試行錯誤しながら調査器具の改良を行ってより良いものにしようと努めています。この方法が確立されれば、相模湾試験場で継続して同じように調査を行うことができ、相模湾の藻場消長の経年変化や評価が可能となります。この調査を行うことで今後の漁業に役立つ情報が得られるため、非常にやりがいを感じています。

しかし、まだまだ知らないことが多いので少しずつでも頭に入れ、漁業者の方々のお役に立て

るような質の良い情報を提供できるようになりたいと考えています。

この2か月、今までやってきたことが生かせたり、逆に今まであまりやったことのなかったことを体験したりと本当に様々なことを経験させていただいています。

今は教えてもらうこと、連れて行ってもらうことが非常に多いですが、今後はさらに知識をつけ、自発的に動き、漁業者の方がどのような情報を求めているのかを頭に入れつつ調査をして、微力ながら水産業振興に貢献していきたいと考えています。



藻場潜水調査の状況



確認した海藻繁茂状況